

園の輪

そののわ No.190

学校法人 甲子園学院



兵庫県高等学校総合体育大会(剣道大会)優勝(神戸新聞社提供)

CONTENTS

〈ESSAY 2025〉…………… 2	〈学校園だより〉…………… 4~9
「琥珀の静寂と、時代の奔流と」	幼稚園 小学校 中・高校 短大 大学
釜 阪 寛	
〈学院トピックス〉…………… 3	学院生の活躍…………… 10
学院物故者慰霊塔参拝(高野山)	
甲子園大学新学長あいさつ	

琥珀の静寂と、時代の奔流と

釜 阪 寛



押し入れの奥で静かに眠る、数本の四リットル瓶。平成から令和へと時代が移り変わるなか、両親と共に過ごした時間が、この琥珀色の液体にそっと封じ込められている。父は平成三十一年（令和元年）に、母はその翌年、令和二年に旅立った。ちょうど、新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり始めた頃だった。

いま私は、両親が平成二十九年の梅雨前に漬けた梅酒を手にかけている。あれから八年。瓶を開けた瞬間に立ちのぼる小梅の香りに、懐かしさと驚きが入り混じった。例年は大粒の南高梅をリキュール酒に漬けるのが常だったが、なぜかその年に限って小梅が使われていた。小さな実から染み出した味わいが、これほどまでに深く、やさしい風味を醸していたとは——今年、初めてそのことに気づかされた。

先日、帰省した実家の庭で収穫した早熟の小梅を、初めて自分の手で漬けてみた。父や母と同じように、アルコールと氷砂糖の力を借りながら、ゆつくりと時間を瓶に封じ込めていく。その一本に、私自身の時間と想いを託した。元来、青酸という毒を含む梅だが、浸透圧の穏やかな作用とアルコールによつて、瓶の中は静かに変化を続ける。毒は消え、琥珀色は徐々に深まっていく。八年後、この梅酒を楽しむ私は、どこで、どんな気持ちでいるのだろうか。

年を重ねた分だけ、味わいも変わる。私の記憶もまた、今という時の熟成によって、異なる香りを放っているのかもしれない。梅酒は急がず、焦らず、ゆつくりとその色を深めていく。人の人生もまた、そうであってほしい。過去の失敗を悔やまず、未来に過度な期待を抱かず、今この瞬間をひたむきに生きること。その積み重ねが、やがて美しい風味となつて、自分自身に還ってくるのだと思う。

私たちが生きるこの時代は、かつてない速さで移り変わっている。情報は秒単位で更新され、市場競争は苛烈を極め、理不尽な出来事が日常にあふれている。正解のない問いが行き交い、先の見えない未来に誰もが不安を抱えながら歩いている。まさに、変動性・不確実性・複雑性・曖昧性——VUCAに満ちた時代だ。そんな世界にあつて、瓶の中で静かに熟成を続ける梅の存在は、あまりにも対照的だ。時間をかけて、ゆつくりと、けれど確かに変化していく。焦らず、流されず、自分の考えと歩調で進んでいいのだと、梅は静かに語りかけてくれるようだ。

梅の実は、その年の気候条件によつて味が変わり、熟成の過程でも複雑な代謝反応を繰り返す。記憶もまた、時の流れとともに色や形を変えていく。それでも、ふとした香りに誘われて、過去のひとつの情景に身を委ねるのも、悪くない。そして、今を懸命に生きた日々が、未来の私の糧となり、その経験を代謝させながら、想い出として熟していくのだろう。

琥珀色の静けさの中に、私の記憶が少しずつ沈んでいく。毒は薄れ、記憶もまた曖昧に変わっていく。それは、決して悲しみではなく、慈しみに満ちた時間の証。そう信じて、今日もまた、新しい瓶に、そっと梅を沈める。

かまさか ひろし ● 甲子園大学栄養学部食創造学科教授。博士（農学）。

平成元年神戸大学大学院農学研究科修士課程修了、同年江崎グリコ株式会社入社。健康課題及びおいしさ科学を軸に研究開発に従事。令和4年甲子園大学栄養学部に着任。令和6年より学科主任。

甲子園大学

新学長・新事務局長就任

本年度甲子園大学長に、元神戸海星女子学院大学の尾崎秀夫教授が就任しました。また、事務局長には、甲子園大学心理学部熊谷正秀教授が就任しました。



大学長
尾崎 秀夫

神戸海星女子学院大学を定年退職し、令和七年四月に甲子園大学学長に就任いたしました。

これまで甲子園大学にはご縁がなく、学長就任のお話をいただいたとき、私に務まるかと悩みましたが、三月の追悼式後の金戒光明寺橋本周現和尚様の「縁は必然」という講演を拝聴し、背中を押

されて、お引き受けする決心を固めました。

甲子園学院は一九四一年から八十五年間に及ぶ長い歴史を持つております。甲子園高等女学校に始まり、戦後は甲子園学院中・高等学校となり、さらに小学校、幼稚園、短期大学、そして一九六七年には大学が創立されました。このように多くの校園から成っていま

すが、これらの結びつきが強いことに、まず感銘を受けました。追悼式や高野山の慰霊塔参詣など学院全体で行われる行事に参加させていただいて、学院が一つの共同体であるということ強く印象づけられました。

私はそのような中で新しく仲間入りさせていただいたわけですが、理事長先生をはじめ、幹事の先生方、各校園の校長先生の方々に温かく迎えられることに、深く

感謝しております。また、右も左もわからない私が、まだ数か月ではありますが、何とか職務を果せているのは、大学の教職員の皆様の支援のおかげであり、この場を借りて御礼申し上げます。

昨今、多くの大学は学生募集に苦慮しています。少子化、受験生のブランド校指向、首都圏志向、大規模校のさらなる定員増など、甲子園大学に対する逆風の要因は枚挙に暇がありません。甲子園大学は栄養学部と心理学部、すなわち「食」と「こころ」という現代社会においてますます重要性が高まる分野を研究し、発信していく大学です。甲子園学院の良き伝統を守りながら、大学を存続させること、そのための第一歩を踏み出すこと、これが私に課せられた使命と心得ています。大鈍を振るわねばならないこともあるかと思いますが、なにとぞ、ご理解の上、ご支援、ご協力を賜りたいと思っております。

高野山慰霊塔参拝

五月一日

美しい新緑の高野山にて、恒例の学院物故者慰霊塔参拝を行いました。金剛三昧院・久利康暢導師の読経の中、久米知子理事長・学院長及び法人・各校園教職員と翠柳会（学院各学校卒業の学内職員）の計五十五名が参拝しました。



慰霊塔は久米長八校、祖と、久米利男前学院長をはじめとして学院関係者の霊を合祀し、

毎年参拝を行っています。また、小学校、中学校、高校、短大、それぞれの児童・生徒・学生は在学中に高野山を訪れ、建学の精神の実践を誓い毎年、慰霊塔参拝を行っています。本年は、前学院長先生と共に学院の発展に尽くしてこられた久米多香子特別顧問、元甲子園短期大学教授・中高主事・中川泰一先生、元理事・甲子園大学事務局長建本信雄氏を新たに合祀し、合祀者は百二十八柱になりました。



おめでとうおめでとう 伏木亨特任教授 日本栄養・食糧学会「功労賞」を受賞

第七十九回日本栄養・食糧学会大会が名古屋大学東山キャンパスで開催され、大会期間中の五月二十三日、伏木亨甲子園大学栄養学部特任教授（前甲子園大学学長）が令和七年度日本栄養・食糧学会「功労賞」を受賞しました。「日本栄養・食糧学会」は、栄養学ならびに食糧科学の進歩をはかり、国民栄養の向上に寄与す

ることを目的に昭和二十二年に設立されました。「功労賞（佐伯賞）」は永年にわ



たり栄養科学、食糧科学に関する学問の発展、普及、さらには「日本栄養・食糧学会」の発展に多大なる貢献をした者に授与されるものです。受賞研究題目は「食品認識機構の多面的解明と和食文化の普及による健康長寿への貢献」で、永年取り組んでこられた研究成果が評価されました。

祝 高等学校剣道部 インターハイ団体出場

六月六日、兵庫県立武道館にて第六十九回兵庫県高等学校総合体育大会（剣道大会）が行われました。四回戦までは順当に勝ち上がり、準々決勝は明石高、準決勝は神戸国際大付属高を破り、決勝では加古川東高校を大将戦で制し、十二年ぶり六度目の優勝を果たしました。

主将の白川茉奈（高三）さんは、「私たち剣道部は、全国の舞台で

活躍するチームを目指し、日々稽古に取り組んできました。兵庫県総体では、二年連続で決勝戦へ駒を進めるも、あと一歩及ばず先輩たちと涙を吞んできました。『今年こそ』と全員で心をついに、チーム最大の武器である『繋げる剣道』でお互いの声を掛け合いながら一本を繋ぎ、悲願の優勝を果たしました。女子団体でのインターハイ出場は十二年ぶりとなります。インターハイでも全員で一丸となり全力で戦ってきます。」と力強く決意を語ってくれました。

入園式

暖かな春の日差しが降り注ぎ、チューリップの花が咲き揃った四月九日、入園式を行いました。



大きな制服に身を包み、保護者に手を引かれてやや緊張した面持ちだった子どもたち。玄関で自分の名前と個人マークを見つけ、クラスの担任から「おめ

新生活が始まりました

四月八日に始業式を迎え、令和七年度がスタートしました。それぞれが一つ大きい学年になり新しい園生活が始まりました。四月当初は新しい保育室や新しい担任、新しいクラスのお友だちに、少し緊張した様子で過ごしていた子どもたちでしたが、新しい玩具を見つけると、一緒に楽しそうに遊ぶ姿が見られました。「この玩具で遊ぶの初めて!」「ずっとこの玩具が気になっていて、遊んでみたかったんだ!」と興味津々でした。また、年中児はお当番活

で「どうぞいいます」と胸に名札を付けてもらうと、嬉しそうな笑顔がこぼれました。

ホールでは、保護者と離れて椅子に座り、初めは少し不安そうにしていたが、園長先生のお話や先生たちの自己紹介が始まると、興味深く話を聞いていました。年長組のお兄さんお姉さんによる幼稚園紹介の場面では、次々と出て来る楽しそうなペープサートに目が釘付けに!これから始まる園生活にドキドキしながらも、期待に胸が高まっている様子が伺えました。新しいクラスや環境に慣れ、毎日笑顔いっぱい、元気いっぱい、楽しく通ってくれることを願っています。

動が年少時よりも更に活発になり、年長児はお当番活動に加えてグループ活動やリダー活動も加わったりして、それぞれの学年の活動にも一生懸命取り組む姿が見られています。初めての活動を通して、子どもたちはお友だちと仲良く協力しながら新しい生活をつくり始めています。そして、その中で主体性が育まれつつあります。



モス布の縄跳び

年長組

年長組になると、モス布を三つ編みにして縄跳びを作ります。はじめは、三つ編みの仕組みを知り、スズランテープを使いながら「右、左、右、左」と呪文を唱えるように進めていきます。色の名前を確認しながら順に編むうちに手順を覚え、短いものから少しずつ長いものに挑戦していきま



出来上がると嬉しくなって仕方がない様で、いろいろな色の三つ編みを何本も作っていました。そして、ついにモス布での三つ編み。モス布の細かい糸が絡まったり、きゅつと締める力加減が難しかったり、スズランテープとは違って悪戦苦闘。それでも諦めず、根気よく一生懸命取り組んでいる姿に年長児らしさを感じました。苦労したからこそ完成したものを愛おしそうに手にしたり、早速跳んでみたりして愛着が湧いている様子でした。年間を通して子どもたちが遊び続けることが出来る背景にはこんな子どもたちの思いが詰まっています。

つくって遊ぼう親子制作

六月七日

保護者と一緒に「作る」ことを楽しみにしていた子どもたちは、「やっつと、この日が来た」とワクワクした表情で登園してきました。満三歳児は初めての保育参観です。親子でかわいい小物入れを作り、思い出に残る作品ができました。年少組は親子で車を作りました。紐を



付け、ひっぱると本当は動く車で

つぶやき Pick up すくすく大きくなあれ

ぼかぼかと暖かい日差しの中、園庭ではダンゴムシ探しが始まりました。子どもの手のひらでゆつくり歩くダンゴムシ。子どもたちはダンゴムシ探しに夢中です。園庭の草むらで子ども同士、頭を突き合わせて何やら話している様子。「おっきいのはお父さんダンゴムシよ」「ちっちゃいのは赤ちゃんだね」と自分たちの生活に重ねているのです。そして「おうちを作ってあげよう」「これはベッドだよ」と虫かごに土や枯葉を入れていました。

す。完成後は室内に作ったコースで走らせて遊びました。年中組は「飛ぶ物」をテーマに、親子で話し合いながら、飛行機やUFO、チョウチョなど思い思いの飛ぶ物を作りました。最後は友だちと見せ合いをし、「もうひとつ作りたくなった」と創作意欲に燃えていました。年長組は竹馬作りです。保護者と一緒にネジを回して足台を固定したり、色を塗ったりして自分だけの竹馬を作りました。完成後、園庭でさっそく試乗です。「ぐらぐらする」「しっかり持ってる!」と言いながら、保護者に支えてもらい、歩く練習をしました。今回の経験から、物作りの楽しさや、イメージした物を形として表現する面白さを感じてくれたらと思います。

片付けの時間になると「お母さんに会えないとさみしくなるね。バイバイ、またね」「元気でね」とダンゴムシをもと居た場所にそっと戻していました。そんな優しい気持ちを大切に受け止め、子どもたちとの生活を過ごしていきたいと思います。



新一年生

(入学式・昼食会・親子の集い)

○入学式・昼食会 (四月九日)

四月九日、暖かな日差しに桜咲き誇る麗らかな日。第七十五回入学式を行いました。六年生に手を引かれ式場に入場する十七名の新一年生に、



大きな拍手と手拍子。温かい雰囲気の中、校長先生の祝辞にしっかりと耳を傾け、担任の先生の呼名に対して大きく元気な返事ができました。

二年生からもらった花束を抱え、輝く笑顔の十七名。式終了後は食堂で和やかな昼食会が開かれ、先

生たちから自己紹介、祝福の言葉を受けました。どの先生も優しく

て楽しそう。すぐに仲良しになった児童もいて、これからの学校生活がとても楽しみです。

○親子の集い (四月二十一日)

日差しに暑さまで感じられる晴

れの日に、イネーブルガーデンで親子の集いを行いました。ランチ

後はガーデン内で自由時間。メダカや多くのハチに驚いたり、咲き

誇る色とりどりの花にも感動したり、また、

ガーデン内の花を使ったフラワー

ケーキ作りにも挑戦しました。



球技大会 五月二日

今年は雨天のため、球技大会は体育館で時間を分けて行いました。

一・二年生は「転がしドッジボール」、三・四年生は「ドッジボール」、五・六年生は「王様ドッジボール」。児童たちは、元気にボールを追いかけたり逃げ回ったりしてはつらつとしたプレーを見せて大変盛り上がりしました。コート外

からチームメイトを大きな声で応援する児童の姿も見られました。

勝敗以上に、仲間を鼓舞し協力しあうことの大切さを肌で

感じてみんなが楽しむことができた

ことができた。



林間学校

五月十四日～十六日

◇高野山く奈良県天川村

二・五年生は和歌山、奈良方面へ。はじめに向かったのは、天空の聖地とも称される高野山。歴史

ある金剛三昧院で昼食をいただいた後、奥の院にある学院物故者慰

霊塔に参拝しました。

天川村の一日目の夜。静まりかえった山のみもとで行われたキャン

プファイヤー。最初の緊張が見る間に明るく楽しいエネルギーに

変わり、良い思い出になりました。二日目は緑豊かな自然の中でのハ

イキング。鍾乳洞や美しい川の景

色に魅了されました。

三日目は、奈良いきものミュージアムと奈良

金魚ミュージアムで大いに楽しみ

ました。

◇ユニトピアささやま

一・三・四・六年生は篠山方面

へ。初日、まずは有馬富士公園での自然観察と立杭陶の郷での絵付

体験。その後、広大な自然に囲まれたユニトピアささやまへ。夕

食後はキャンプファイヤー。みんな



なはじける笑顔で歌ったり踊ったり、大いに盛り上がりました。

二日目は、焼き板作り、フィールドアスレチックと盛り沢山の活動。昼食は火の熱さと格闘しながらも、六年

生が心をこめて作った美味しいカレー。

三日目は、元気いっぱい

にオリエンテーリング。三日間の班活動を通じて、みんなの絆がまた一段と深まりました。



すばらしい先輩たち

水野 隆行

第三十三期生

ジョンソン&ウェルズ

大学米国卒業

株式会社Jの顧問



かつて、進学すること、学校へ通うことの本質的な意味を、一人

の親として考えたことがあり、最近になって一つの解に辿り着いた

ような気がしています。それは、「出逢い」の連続ということ

です。なぜなら、私はその「出逢い」に

生かされ、いまという瞬間を豊かに生かすことができていると感じ

ているからです。小学校を卒業し

てから三十五年以上の時を経て、多くの同窓生と語り合い、学院で過ごした貴重な時間を笑顔で振り返ることができています。個性豊かなメンバーの自主性や主体性を尊重してくれた学院での教育は、今の学校教育を数十年前から予見し、先行していたと言えます。仲間と共に学び合い、切磋琢磨したその掛け替えのない時間が私たちの今という点に練で結ばれているのです。

「勉勵努力」「和衷協同」「至誠一貫」これら建学の精神は、社会人となった今も私たち同窓生の胸に刻まれ、社会から必要とされる人材であり続けようとする私たちに励まし続けてくれます。そ

んな私にとって、大変嬉しいことがありました。それは、防犯カメラの設置、管理を行う会社を営んできた実績を評価していただき、甲子園学院に通う子どもたちの為

にお役に立てる機会を得たことです。みんなが安心して学び、安全に過ごせる環境を提供することができるのは、幼稚園からお世話になつた学び舎への恩返しにもなる

からです。今日も、そして、明日も輝く未来に向かって豊かな学びが実現する。そんな夢が現れるような「夢現」の可能性を感じられる学び舎をこれからも支え続けたいと思います。在校生の皆さん、

出逢いの連続です。学友と過ごす、その瞬間を大切してください。

学院での新生活が始まる

中学二年・高校一年

○入学式

四月八日、講堂において、令和七年度の中学校・高等学校入学式を挙行しました。天候がやや危ぶまれましたが、開式のころには良い天気となりました。久米知子理事長・学院長先生をはじめ、ご来賓の方々並びに保護者の皆様など多数の方々にご参列いただき、新入生の入学をお祝いしました。会場の皆様からの拍手に包まれながら、担任の先生に先導された新入生が入場しました。全員が入場したのち、中学校と高等学校の代表生徒が宣誓を行いました。代表生徒の二人は、前日のリハーサルの結果をしっかりと発し、その役割を立派に果たしました。



た。この宣誓に負けないよう新入生全員がそれぞれの目標に向かって力強く進んでほしいと思います。入学式終了後、新入生は教室で担任の先生の話聞きながら、自らの決意を新たにしていました。希望に胸を膨らませた新入生の皆さんが、これからの三年間、実り

ある学校生活を送ってくださることを信じています。

○対面式

四月九日は、新入生と在校生の対面式を行いました。吹奏楽部の華やかな演奏と在校生の盛大な拍手で新入生が入場しました。まず初めに、宮島校長から新入生と在校生それぞれにメッセージがあり、続いて吹奏楽部から、「September」と「新宝島」の歓迎演奏がありました。そして、生徒会会長から新入生へ歓迎の言葉を、それを受けて、新入生代表として中学校と高等学校の代表生徒から在校生へ誓いの言葉がありました。最後に生徒会役員から新入生の各クラスの代表者に花束を贈呈し、対面式は終了しました。



○部活動紹介

対面式後に部活動紹介も行いました。部活動紹介は生徒会役員が司会を務め、進行了しました。吹奏楽部のMrs.GREENAPPLEメドレーの演奏から始まり、運動部文化部の順で紹介を行いました。

バーミンガム市交響楽団の バンド隊として演奏

六月二十九日、兵庫県立芸術文化センター開館二十周年記念公演山田和樹指揮バーミンガム市交響楽団のバンドとして本校吹奏楽部の生徒が出演しました。バンドとは「作曲者の指示で、オーケストラ本体以外の別働隊（一人の場合もある）」を設けて、舞台裏などの別の場所に奏者や歌手を配置して音を出させること」です。山田和樹氏は今年の六月にベルリン・フィルハーモニー交響楽団にデビューされた日本を代表するマエストロです。トランプット四名、トロンボーン四名、ホルン五名がシヨスタク「ヴィイチの「祝典序曲」を演奏しました。



各々の部は、活動の目標や活動場所と時間、練習の様子や作品などを披露し、新入生へアピールを行いました。どの部も堂々とした姿で新入生の前に立ち、紹介している姿が見られました。新入生は全ての部活動の紹介を聞き、どの部活動に入ろうかとわくわくしている様子でした。

「BEAT」時代の鼓動 甲子園学院中高に取材

四月二十七日、読売テレビの番組「BEAT」時代の鼓動」（午前十時二十五分〜三十分）で本校が紹介されました。その中で、宮島隆之校長が学校と生徒に対する思いを語り、写真や映像で授業や部活動の様子が放映されました。「学校の教職員は、生徒一人ひとりを大切にしている気持ちは絶対に持っていないといけない。そして学校として、今の生徒が満足できるような教育をしていかなければならないと常々思っています。本校では、勉学と部活動の双方に

宿泊研修

高校一年生

五月七日〜九日の日程で、高校一年生が淡路島にあるグランドニッコー淡路で宿泊研修をしました。「淡路島体験型SDGsプログラム」では、木の枝を用いたバイオネストと呼ばれる堆肥作りや、火打石を使った火おこし体験等、自然に直接触れ合うことで、SDGsについてより具体的に学ぶことができました。ホ



テルでは、ベッドメイキングの職業体験を行い、仕事における苦勞や責任、やりがい等を体験し、夕食時にはテールプーマナーを通じて一般的な教養を学びました。また、教科の学習の時間においては生徒同士で教えあいながら協力して勉強し、集団活動においても仲間とのつながりを深める良い機会となりました。三日間の宿泊研修を通じて、生徒同士の絆がより深められ、非常に実りある研修を行うことができました。



春の校外学習

中学校、高校二・三年生

四月二十五日にユニバーサルスタジオジャパンにて、中学生と高校一年生、二年生が春の校外学習を行いました。

中学生は学校に集合して出発し、高校生は現地集合でした。目的地に向かう道中では事故もトラブルもなく、全員無事に現地集合することができました。



事前準備は、並ぶ必要のあるアトラクションを調べ、効率よく回るルート

を計画するなど、しっかりと行いました。園内の班別行動では買

い物をしたり、アトラクションに乗ったり、ショーを楽しんだり、ユニバーサルスタジオジャパンを存分に満喫しました。当日は、出会った班同士と一緒に行動している様子も見られ、帰ってきた生徒からは薬

高野山慰霊塔参拝

四月二十五日、高校三年生は高野山にある「甲子園学院物語慰霊塔」を参拝しました。慰霊塔参拝の前には、三年生で参拝する意義や、高野山とはどのような場所なのかを事前に学習しました。当日は予定通りに学校を出発し、到着後は慰霊塔まで歩き、クラスごとに手を合わせました。その後、再びバスで金剛三昧院に移動し、精進料理をいただきました。

精進料理を食べることが初めてだという生徒も多く、肉や魚を使わない料理に不安を持っていましたが、高野豆腐や地元で採れた野

菜を使った料理は美味しく、生徒たちにとっては貴重な経験となりました。昼食後は一時間程度の自主研修時間をとり、お土産選びなどをしました。参拝後には「高校三年生としての自覚が芽生え、卒業に向けて決意を新たにできました」「勉強を一生懸命すると改めて思いました」など、事前学習の成果も感じられる感想文も多くありました。



しかったという声をたくさん聞くことができました。最後は入場口付近の地球儀型のオブジェクト「ユニバーサル・グロープ」で記念撮影。中学一年生と高校一年生は入学してすぐ、新しいクラスメイトとの初めての行事でしたが、この校外学習で新たな友人との絆を深めることができました。

体育大会

五月三十一日、体育大会を行いました。当日までの準備では各学年で作戦を立てたり、放課後に残ったりして、行事に対して積極的に取り組む姿勢が多方面で見られました。前日までは天候が不安定で開催できるか分からない状態

でしたが、当日は良い天候で実施することができました。予行演習も本番も熱中症などの体調不良の生徒はいませんでした。今回の体育大会では「障害物競走」と「借り物競争」が新しく行われました。「障害物競走」では速さだけでなく、「器用さ」が勝敗を分けました。



「借り物競争」では「〇〇な人」というお題があり、理事長先生や校長先生にもご参加いただきました。中学生の元気なところや高校生のチームワークなど各学年で素敵な演技をたくさん見ることができました。

また。甲子園学院中学校・高等学校の体育大会の名物企画にもなっている仮装行列は、今回もレベルの高い仮装が行われました。優勝は高校二年一組「大阪関西万博のミヤクミヤク」でした。総合優勝は中学生でした。



準備や運営面では、生徒会役員を中心に、中学・高校のバレーボール部、剣道部、吹奏楽部、バスケットボール部など、たくさんの生徒の協力があり、スムーズに行うことができました。

露。特に、夏のコンクールに向けて日々練習を重ねてきたバレエ音楽「白鳥の湖」は、今までの練習の成果を初めて披露する場となりました。

五月二十日、尼崎総合文化センターあましんアルカイックホールにて、第十八回定期演奏会が開催され、約千二百名の来場者に「甲子園サウンド」を届けました。新体制となって初めての大きな本番であり、部員一同、この日を迎えるにあたり準備を進めてきました。特に一年生にとっては初めての定期演奏会。先輩たちの指導のもと、準備段階からそれぞれの

吹奏楽部 定期演奏会

役割を果たすべく、一生懸命に励む姿が非常に印象的でした。第一部のクラシックステージは、「舞踏組曲」で幕を開け、二〇二五年度全日本吹奏楽コンクール課題曲Ⅲマーチ「メモリーズ・リフレイン」、課題曲Ⅳ Rhapsody ~ Eclipse を披



第二部では、KGB紅白歌合戦「全世代から愛される思い出の名曲」をテーマに、懐かしの名曲から最新のヒット曲まで、幅広いジャンルの曲を演奏しました。歌やダンスを取り入れたパフォーマンスに加え、観客にも掛け声などで参加していただき、会場全体が一体となり大いに盛り上がりました。

入学式

四月三日、学院中高の講堂において入学式を挙行了しました。

久米知子理事長・学院長先生、ご来賓ならびに保護者の皆様、在学生が一堂に会した厳かな雰囲気の中、早坂三郎学長より新入生への祝辞があり、



り、新入生からは誓いの言葉が述べられました。式後、新入生は保護者と共に短大生活の概要を理解するためのスタートアップ・ガイダンスを受講しました。まず、教員紹介に始まり、授業や資格取得奨学金、就職支援、電子学生証等の説明がありました。新入生は緊張しつつも、新たに始まる短大生活への期待感と専門分野の学習と資格取得への意欲に満ちていました。自らの夢や目標を實現し、社会で活躍する人材となる二年間の学びが期待されます。



高野山研修

四月二十二日、Ⅰ・Ⅱ回生合同で高野山研修を実施しました。

春の穏やかな気候の高野山までバスでの往復でした。厳かな雰囲気奥の院にある、学院物語者慰霊塔まで歩きました。参拝の際には先人のご遺徳を偲び、学院で学ぶことの意義を思い起こしました。そして、Ⅱ回生は最終学年となった自覚と勉学への誓いを、Ⅰ回生は入学の報告とこれからの二年間、「建学の精神」の実践の誓いをそれぞれ胸に、静かに

介護福祉士 全員合格 国家試験

一月二十六日に実施された介護福祉士国家試験について、三月二十四日に本学受験生全員の合格発表がありました。介護福祉フィールドの学生たちは授業や実習と試験勉強を両立させ、冬休み期間も自主学習に取り組む等、努力を重ねた結果「介護福祉士登録証」を手に入れることができました。卒業した現在は介護福祉士として、それぞれの職場で介護の仕事に奮闘しています。平成十一年より開始した介護福祉士養成で介護福祉士資格を得た延べ四三〇名の卒業生たちも一つ一つの出会いを大切に、今後も地域や社会で活躍することを祈っています。

手を合わせました。金剛三昧院に着くと、境内にある国宝「多宝塔」とともに満開の美しい枝垂桜が迎えてく



れ、学生も見入っ てしまうほどでした。三昧院宿坊の広間で美味しい精進料理を

短大六十周年記念 紀要第四十三号の発行

「甲子園短期大学紀要」は、本学教員の研究教育活動として、毎年度末に一回発行されている本学の学術機関誌です。令和六年度が昭和三十九年の開学から六十年の節目の年にあたることを記念し、本号巻頭言では、甲子園高等女学校創設から本学の開学、そしてこれまでの歩みを振り返っています。女子教育の充実と発展をめざし、教育内容と教育環境の向上・発展に取り組んできた短大のこの六十年の歴史を、基盤となる建学の精神と共に辿っていただけることと思います。なお、紀要は短大ホームページからご覧いただけます。

短期大学六十年の歴史を振り返るその①

短期大学では、令和八年度以降の学生募集停止を決定しました。「教育の原点は人間性を育むことにある」という校祖久米長八先生、久米利男前学院院长先生、久米知子理事長・学院院长先生の三代にわたっての教育理念のもと、学生・保護者・卒業生および教職員が一元となって教育実践に努めてきました。六十年間における卒業生は一万有余名を超え、地域活動や社会などで活躍し、それぞれが高い評価を受けています。

在学生の支援には、引き続き総力を挙げて取り組むと共に「園の輪」の誌面をお借りして、六十年の歴史を振り返ってまいります。

神戸北野ホテルでの研修

六月十三日、Ⅱ回生の「発表技法論」履修生の七名が、神戸北野ホテルで



研修を行いました。館街に佇む同ホテルは、ヨーロッパの邸宅を思わせる外観と洗練された内装が魅力の都市型オーベル

「校祖久米長八先生は女子教育の重要性を唱え、昭和十六年に甲子園高等女学校を創設され、さらに一貫教育の仕上げの場として短期大学の設置を強く願われ、その計画を進めておられました。」

その後、校祖先生のご遺志を継がれた久米利男前学院院长先生と久米多香子前法人本部事務局長先生が短期大学の設置を企画し、短期大学制度が恒久化された昭和三十九年に設置が認可され、斎藤睿寿学長のもと、家政科十六名でスタートしました。「清き流れー甲子園短期大学開学三十周年記念ー」より一部抜粋



ジュです。学生たちは、アフタヌーンティーを味わいながら、空間演出や接客マナー、テーブルセッティングなどを観察。事前にヨーロッパの文化的背景やマナーを学び、ライフスタイルデザインやホスピタリティーの視点を意識して臨みました。ホテルスタッフによる館内案内では、歴史ある調度やサービスへの理解を深めるため、積極的に質問する姿も見られ、非日常の中で多くの学びと気づきを得る貴重な機会となりました。

入学式 新入生歓迎会

四月二日、令和七年度入学式を三号館大講堂において挙行しました。まず、新たに就任した尾崎秀夫学長が式辞を述べ、続いて新入生代表として栄養学部の沖中香楠さんが宣誓を行いました。新入生は緊張しつつも、期待に満ちた表情で式典に臨んでいました。式典



終了後には、今年度の大学役職員の紹介が行われました。

四月十二日には、甲友会主催の新入生歓迎会(クラブ・サークル紹介)が行われました。新入生歓迎会は、クラブ・サークルでの交流を通じて学生生活をより一層有意義なものにしてもらいたいという趣旨で、毎年開催されています。新入生はもちろんのこと、先輩になる在学生も新たな出会いを喜び、会話を楽しむ様子が見られました。



NHK連続テレビ小説「おむすび」制作協力



NHK連続テレビ小説「おむすび」(令和六年九月〜令和七年三月放送)の制作段階で、栄養学部栄養学科の篠木敬二専任講師(臨床栄養学担当)が、管理栄養士指導を担当しました。

「おむすび」は、橋本環奈さん演じる「米田結」が、人との関りを大切にする家族に支えられ、栄養士、管理栄養士となり、食と栄養を通じて人々の健康と幸せに貢献する物語です。阪神・淡路大震

災の避難所で生まれた「おむすび」のエピソードも印象的でした。後半では病院に勤務する管理栄養士として、人々の健康を支え活躍する姿が描かれました。

篠木講師は、前職(箕面市立病院)での栄養サポートチームや臨床指導の豊富な経験を買われ、大阪府栄養士会からの推薦で「おむすび」の制作に携わり、専門的かつ実践的な経験を背景に病院管理栄養士の魅力を伝えました。大学でも、管理栄養士の責任ある職務や、そのやりがいについて、理解できるように授業を行っています。

キッチンカーでクローフル販売

食創造学科の学生グループが、プロジェクト実践科目の一環で、三月二十九日に宝塚末広中央公園で行われた「第二回湯の町宝塚タンサンフェス」にキッチンカーを出店しました。クローフル生地をワッフルの形に焼き上げたスイーツ(クローフル)を製造・販売しました。昨年度の学内販売の実績を活かして、今回も企画から当日の販売まで約二ヶ月間、学生たちは熱心に取り組みました。

プロジェクトリーダーを務めた坪田美由さん(三回生)は「当日、多くのお客様に買っていただきとても感動しました。今回は特にメニュー開発に力を入れており、

美味しさはもちろん、食べ易さや作る際の効率化など様々な観点からこだわりのクローフルメニューを開発しました。初めてのキッチンカー販売でわからないことも多く、助手の先生方にも入っていただき、試行錯誤を繰り返しながら準備を進めてきました。今回のキッチンカー出店で、学生同士や先生方との絆が深まり大きな経験と学びに繋がったと感じています」と充実した表情で語ってくれました。



「宝塚牛カレー」ふるさと納税返礼品に登録

栄養学部食創造学科二回生が、第四回宝塚カレーグランプリ(令和六年八月)に出品した「宝塚牛カレー」が、宝塚市のふるさと納税寄付金の返礼品として登録されました。

今回のカレーの主役となった宝塚牛は、「宝塚市内の指定生産農家で肥育された黒毛和種の雌牛」の条件を満たすブランド牛です。

毎月の出荷頭数も制限されている希少な牛肉を使用し、スパイスを効かせたコクが自慢の中辛カレーに仕上げられています。



これからの地域の産業を融合し、新しい産業を形成しようとする六次産業化を学び、実践につなげる取り組みを続けていきます。

食堂・学生ホール Koshien wellness square

三号館一階の食堂と学生ホールを「Koshien wellness square」としてリニューアルしました。そのコンセプトは「健康(wellness)につながる「食」と「こころ」を学ぶ学生を支える場所」であり、明るく開放的なデザインとなっています。コンセプトを際立たせるべく、食堂にはおしゃれな机や椅子を設置し、学生ホールはフルリノベーションすることで、学生が思い思いに過ごすごとができる空間となりました。



私のフィールドワーク(研究紹介) 心理学部教授 中植満美子

私は研究テーマの一つである描画を用いた心理支援の経験を活かし、学生と一緒に、アートセラピーボランティア「絵の会」として、六甲病院で入院患者さんとそのご家族のために活動しています。言葉にできない様々な思いが、非言語のコミュニケーションの中で表現されることもあり、作品は大変貴重な思い出の品となっています。また、児童養護施設においても、様々な形での集団療法実践を学生たちとともに、試行錯誤の中行ってきました。現在は、自己・他者理解、そして、他者の心を思う力を育む取り組みを考案中です。対人支援職を目指す学生たちにとっても、今後の支援・研究活動のヒントとなれば幸いです。

学院生の活躍

(○数字は開催月)

中学校バレーボール部

④第七十七回西宮市中学校市民体育大会バレーボール競技大会
優勝



⑥令和七年度阪神中学校バレーボール男女優勝大会 **優勝**

高等学校バレーボール部

④第七十八回西宮市市民体育大会バレーボール高等学校の部 **優勝**



④第七十八回西宮市市民大会剣道大会 **優勝**

中学校剣道部

④第七十八回西宮市市民大会剣道大会 **優勝**

◇中学一・二年生女子の部

優勝 高良碧乃 (中一)
準優勝 小西遥 (中二)

3位 関戸陽菜里 (中二)
3位 小室美緒莉 (中二)

◇中学三年生女子の部

優勝 鎌田心桜 (中三)
3位 難波ひいな (中三)

◇高等学校剣道部

④第七十八回西宮市市民大会剣道大会 **優勝**

3位 白川琴葉 (中三)

3位 白川茉莉 (高三)
3位 姫田諒永 (高二)

3位 代谷梨央 (高二)
3位 菱谷芽生 (高一)

3位 代谷梨央 (高二)
3位 菱谷芽生 (高一)

⑥第六十九回兵庫県高等学校総合体育大会 (剣道大会) **優勝**

3位 白川茉莉 (高三)
ベスト8 菱谷芽生 (高一)



本年度のオープンキャンパス

詳しいことはホームページで、または各学校にお問い合わせください。

大 学 0797-87-5111	7月13日 日	10:00～14:00
	7月27日 日	「プログラム」 ○学部・学科ガイダンス
	8月10日 日	○体験コーナー、体験プログラム
	8月24日 日	○体験授業、ミニ講義 ○入試説明・相談会
	9月7日 日	○個別相談 など
高等学校 中学校 0798-65-6100	8月24日 日	10:00～13:00 オープンスクール「プログラム」
	9月20日 土	○学校紹介、コース制の紹介 ○部活動見学・体験、校舎見学
	10月26日 日	○制服試着 ○食堂無料体験 など
	7月12日 土	10:00～
	11月22日 土	○学校説明会 ○入学試験説明会・入試対策講座
	12月6日 土	10:00～
小学校 0798-67-2366	12月13日 土	○入試個別相談会
	7月12日 土	9:30～12:00 サマー体験学習
	9月19日 金	13:15～14:00 公開授業・個別相談会
	12月20日 土	9:30～12:00 ウィンター体験学習

役員人事

異動 (四月一日)
大学 特任教授 伏木 亨
大学 事務局長 熊谷 正秀
法人事務局 参与 井坪 玄以
大学 採用 (四月一日)
尾崎 秀夫

園の輪 そののわ No.190

令和7年7月10日発行

学校法人 甲子園学院
〒663-8107 西宮市瓦林町4番25号
TEL. 0798(67)2100
FAX. 0798(67)5488
http://www.koshien.ac.jp/honbu/

あとがき

◆編集委員長が吉田光男(本部顧問)に、また、編集委員のメンバーが少し変わりました。編集委員一同、学院各中学校園の様々な活動の紹介に努めて参ります。皆さまのご意見やご感想をお寄せください。

令和7年度 園の輪編集委員

吉田 光男 (大)	高橋 延行 (大)	浅井 航洋 (大)	片桐由美子 (大)	堀田浩之 (大)	中野久美子 (大)	猿丸 恭子 (短)	檜垣 康太 (中)	加賀瀬順平 (中)	澤井 良彦 (幼)	西田 朋世 (小)	坂田 和隆 (小)	井坪 玄以 (法)	平田 春業 (法)	西脇 敏行 (法)
-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------